

福岡赤十字病院 外来診療担当医一覧表

○新患及び再来 ●予約のみ ▲午後再来(予約のみ) ※再来は原則予約制です							
科別	氏名	月	火	水	木	金	専門分野・備考
総合診療科	川本 徹					○	内科一般
	総診当番医①	○	○	○	○		
	総診当番医②					○	※当番医：内科系医師による交替制
消化器内科	青柳 邦彦			▲	○		消化管 (食道・胃・小腸・大腸)
	平川 克哉				▲		
	工藤 哲司		▲	○			
	秋吉 大輔	▲				○	
	大石 篤美				○	▲	
	野村 亜貴子		▲				
	増原 裕之	○				▲	
	岩武 史朗		○		▲		
腎臓内科	徳本 正憲	▲		○			腎臓
	中井 健太郎	○	▲				
	中川 兼康	▲	○				
	原 雅俊				○		
	宿理 朋哉			▲		○	
糖尿病・代謝・内分泌内科	山岡 奈央		▲				糖尿病、代謝、内分泌、生活習慣病 ※内分泌新患は火・水・金のみ
	佐々木 伸浩		○			○	
	井元 博文		○		▲	○	
	川本 徹					●	
	於久 真由美	●		○		▲	
	藤平 美佳				●	●	
	堀内 俊輔		●		●		
	内分泌担当医		○	○		○	
	中川 瑞穂		▲	▲		▲	
	向井 靖			○	○	○	
循環器内科	増田 征剛	○				▲	循環器
	松川 龍一	▲			○		
	松浦 広英		○	▲			
	徳留 正毅			○			
	河合 俊輔	○					
	岡原 有秀					○	
	岡部 浩祐					○	
	酒見 拓矢		▲				
	渡部 僚						
	中島 光香						
	野間 彬仁						
	原 綾乃						
高血圧内科	大坪 俊夫	○					高血圧
	河口 知允	○			○		
	木村 信一		○			▲	
呼吸器内科	増本 駿	▲		○			呼吸器一般
	平田 慎治		▲			○	
	城 暁大	○					
	早田 哲郎	○	○	○	○		
肝臓内科	西澤 新也	○			○		肝疾患一般
	宮山 隆志						
	福山 真						
	谷本 一樹		○		○		
血液・腫瘍内科	平安山 英雄			○			血液疾患一般 固形腫瘍の化学療法
	河野 一郎	○					
	次郎丸 高志					○	
	大津 雅広						
	北山 次郎	○			○		
脳神経内科	岡田 卓也			○		○	脳卒中・神経疾患
	佐原 範之		○				
	池内 泰仁						
膠原病内科	井上 靖	▲	○	○	○		膠原病
	田中 淳	○		●	○		
	高月 健作						
感染症内科	石丸 敏之	○				○	感染症一般 ※金は午後のみ(13時～15時受付)
	岩坂 翔						
	横山 貴士						
	渡部 遙						
外 科	中房 祐司		○				一般外科 消化器外科、肝胆脾外科 乳腺・内分泌外科 呼吸器外科 腹腔鏡下・胸腔鏡下手術 腎移植、腎不全外科 ERCP、PTCD、EST
	永井 英司		○			○	
	本山 健太郎	○	▲		○		
	小島 雅之			○			
	上田 純二		○		○		
	井上 重隆		○				
	小倉 康裕		○		○	○	
	梁井 公輔		○		▲		
	安井 隆晴		○		○		
	松田 圭央	○			○		
	松永 壮人		○			○	
	中房 祐樹		○		○		
	鬼塚 哲	○	○	○	○	○	
	林田 さゆり						
	廣高 健斗						
	倉元 通宇						
	山崎 章生						
	非常勤医師			○			
	小江 雅弘		○		○		
	恩塚 龍士		▲		▲		
(緩 和) (乳 腺)	経 仁	○			○		脳腫瘍 脳血管障害(脳卒中) 脳神経外科疾患 ※水は手術日です
	吉岡 努		▲		○		
	湯田 尚樹		○				
心臓血管外科	西永 泰介	▲	▲		▲	▲	心臓外科、大動脈瘤 血管外科
脳神経外科							脳神経外科疾患

令和3年10月5日現在									
科別	氏名	月	火	水	木	金	専門分野・備考	職名	
皮膚科	竹下 弘道	○	○	○	○	○	一般、尋常性乾癬 アトピー性皮膚炎 ※月・火は10時まで、再診は完全予約制	部長	
	佐々木 夏季	○	○	○	○	○			
眼 科	吉山 慶三	○					糖尿病性網膜症 白内障、緑内障	部長	
	天野 佑理	○	交替制	○	交替制	○	脊椎・脊髄外科 ※火・木は10時まで、再診は完全予約制 ※火・木は10時まで、再診は完全予約制	副院長	
	非常勤	○	交替制	○	○	○	脊椎・脊髄外科 脊椎・脊髄外科 膝関節・脊椎外科・一般 手の外科・外傷、一般	部長 副部長	
整形外科	泊 真二	○					○	外傷一般	
	加藤 剛	○	定期手術日	○	○	○			
	由布 竜矢			○	○	○			
	安原 隆寛	○							
	高橋 宗志	○			○				
	中川 航	○					○		
	森 詩乃				○	○		※火は10時まで、火は手術日です	
産婦人科	木村 太一	○		○					
	西田 真 婦						産	部長	
	遠城 幸子						産	部長	
	松本 恵			産		婦	産婦		
	和田 智子			産婦					
	濱崎 洋一郎						産婦	週産期	
	貴島 雅子				婦		産	悪性腫瘍、良性腫瘍 腹腔鏡手術	
	友延 寛	産		婦				※火・木は10時まで	
	田中 大智			婦		産			
	中島 京	産				婦			
小児科	野田 龍之介	婦	産						
	藤 玄一郎			産					
	波多江 健	○		○		○	腎疾患	部長	
	長友 太郎					○	新生児	部長	
	小野山さの	○				○	感染症	副部長	
	松倉 幹		○		○		神経		
	鷲尾 真実		○		○		一般・腎疾患		
	高松 絢						一般		
	出羽 航大						一般		
	非常勤			○			神経	※予約制、午前中のみ	
耳鼻咽喉科	非常勤			○	▲		循環器	※予約制	
	高岩 一貴	○	○	○	○			副部長	
	藤村 晶子	○	○	○	○	交替制	耳鼻科一般		
	高良 佳江	○	○	○	○		※火・水・金は10時まで ※緊急時は対応いたします		
	嬉野 悠太	○	○	○	○				
	形成外科	前場 崇宏	○		○		再建外科、皮膚軟部腫瘍、 先天性疾患、顔面外科	副部長	
	泌尿器科	清島 圭二郎	交替制	●	●		○	尿路結石	部長
		秋武 正和		●	○		●	排尿機能障害	副部長
		岡田 達憲		○	●			尿路感染症	
		近松 惣太郎	●			○	●	尿路性器腫瘍	
空閑 正樹							腹腔鏡手術		
非常勤						▲	ロボット手術		
精神科	芝田 寿美男	●	●	●	●	●	一般・行動療法、強迫性障害	部長	
	非常勤				●	●	※完全予約制、月・水・金のみ新患も診察		
歯科・ 歯科口腔外科	榊山 哲郎	○	○	○	○	○	一般歯科、口腔外科 ※再診は完全予約制	部長	
放射線科 (診断)	松尾 芳雄						検査依頼（CT・MRI・R等）のみ 電話予約制	部長	
	新堀 裕子								
	糸山 昌宏								
	高瀬 華恵								
放射線科 (治療)	浅田 大地						放射線治療	部長	
	木村 正彦	●	●		●				
麻酔科	非常勤	●							
	生野 慎二郎						術中管理	部長	
	江口 明							部長	
	迎 雅彦							部長	
	林 文子								
	中森 絵里紗								
	山田 宗範								
	中上 晴紀								
黒木 茉央									
病理診断科	牧原 濃子						人体病理一般 検体検査管理	部長	
西山 憲一								副部長	
救急科	峰 真理						救急（各種中毒疾患含む）	部長	
	友房 茂樹							副部長	
	荒武 憲司							副部長	
	大矢 浩史							副部長	
健診部	皆川 雄郷						人間ドック・健康診断	部長	
	村瀬 美奈子								
	大坪 俊夫							部長	

●受付時間 8時10分～11時00分 (診療開始 8時40分)		
※診療科の備考欄に特に記載のない場合に限りです。		
●急患診療体制		
※救急車や医療機関からの紹介患者の受入れは、24時間体制で対応いたします。		
内科系	平 日	17時00分～23時00分
	土・日・祝日	8時30分～23時00分
小児科	平日(祝日除く)	17時00分～19時30分
	土(祝日除く)	9時00分～17時00分
●休診日 土・日・祝・年末年始(12/29～1/3)		
※出張等で休診する場合がありますので、事前に各診療科にお尋ねください。		

☎0570-03-1211

福岡赤十字病院 広報誌

Cross Heart

2021.10 秋号 vol.49

病院管理者【院長】中房祐司 【副院長】青柳邦彦・泊真二・永井英司・石丸敏之・平川克哉 【事務部長】田中秀隆
2021年10月発行(第49号)福岡赤十字病院企画推進課 〒816-8665 福岡県福岡市南区大楠3丁目1番1号 TEL0570-03-1211
https://www.fukuoka-med.jrc.or.jp/

福岡赤十字病院 広報誌

Cross Heart

Feature 特集

整形外科紹介

患者さんと一緒に治療 安心していただける医療提供



福岡赤十字病院

病院の理念

信頼と調和に基づく最良の医療
～地域を尊重、世界を視野に～

基本方針

1. 質の高い安全な医療
2. 救急医療
3. 国内外の医療救援活動
4. 地域連携
5. 教育・研修・研鑽
6. 患者・職員満足度の向上

2021. 10 秋号

vol.49

Japanese Red Cross Fukuoka Hospital

当院における新型コロナウイルス陽性妊婦の対応

運動不足解消のホームエクササイズ

新型コロナウイルス感染症対策整備支援

Introduction 登録医のご紹介

いしつか脳神経クリニック

医療法人 平川内科クリニック

診療科紹介 整形外科

🏠 一般の皆さんへ

皆さんは整形外科という診療科の治療内容やその特徴についてご存じでしょうか？「けがをしたときは整形外科と外科、どちらに行ったらいいのか」とか、「整形外科と形成外科の違いがよくわからない」というような話を聞くこともあります。

整形外科では体の中の運動器のけがや病気を治療しています。運動器とは体を支える骨、手足を曲げるための関節、関節を動かす筋肉、筋肉に指令を伝える神経を総称したものです。

外科は主に体の中の内臓の疾患を治療しています。けがをしたときに整形外科と外科、どちらを受診するかという点では、どちらの科の先生も手術をしていますので、皮膚のけがの治療は出来ます。しかし骨折や手足の腱（指を動かすすじ）が切れるなど運動器の外傷に関しては整形外科が専門です。

形成外科では主に体の表面の皮膚の異常を治療しています。生まれつきの異常や病気・けがによる身体表面の外見上の不都合を改善することが主な治療対象で、整形外科とは異なります。また、いわゆる美容形成外科は整形外科とは治療対象が全く異なります。

運動器疾患とはどのようなものかという、具体的には骨折や靱帯断裂などの外傷、椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症を代表とする脊椎疾患、変形性関節症や関節リウマチによる関節疾患などがあります。

治療の目的は、病気やけが自体を直すことはもちろんですが、体の運動機能を元に近い状態に戻してあげることが重要

です。骨が折れたときに骨折を治すことだけを考えれば、骨が再生するまで（約3ヶ月間）ギプスをつけてじっと寝ていることが最も簡単な方法です。しかしそれでは筋肉が衰え、関節が固まり、以前の活動性は失われ歩くこともままならない状態になります。元の状態を回復するためにはけがや疾患そのものの治療に加え、機能の回復を図るリハビリテーションが必要になります。リハビリの目的は今までの日常生活へ戻ること、仕事が出来ようになること、スポーツ活動へ復帰することなど、それぞれでレベルは異なります。目的のレベルへ向かって病気やけがの治療とリハビリを行い、患者さんと一緒に治療していくことが、整形外科での治療になります。

🏠 医療関係者、一般の皆さんへ

福岡赤十字病院整形外科の特徴

■外傷

令和2年度における外傷関連の手術は420例で、整形外科手術全体の57.7%を占めており、急性期病院としての当院の特徴を示しています。高齢者に多い大腿骨近位部骨折の手術例数は180例で福岡市内でも有数の手術数です。当院の特徴として、末期腎不全に対する血液透析施行中の方や糖尿病・心疾患を有する方など、高度の合併症のある骨折患者さんの割合が一般的な病院より高くなっています。このような患者さんでは周術期のリスクが高く、内科や麻酔科の協力も得て周術期管理を行っており、安全性の高いチーム医療を実践しています。

その他、各部位の骨折・外傷にも対応し

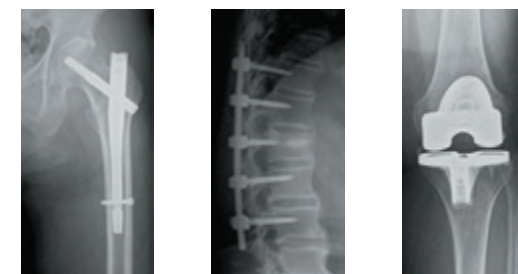
患者さんと一緒に治療
安心していただける医療提供

ています。CT・MRIなど画像診断を駆使して病態を正確に把握し、ブリーフィングやカンファレンスを行い、チームとして治療方針の決定や術式選択を行っています。

■脊椎外科

当科では以前から顕微鏡を用いた安全性の高い脊椎手術を施行していましたが、令和1年度からは加藤剛医師を脊椎外科部長に迎え、脊椎内視鏡手術と低侵襲脊椎固定術(MISt)も導入し脊椎術式選択の幅を拡大しています。手術中の安全対策として、脊髄モニタリングを行い脊髄伝導性が変化する徴候をリアルタイムに監視して術後の脊髄障害発生を未然に予防することや、術中エコーにより脊髄の除圧状態と拍動の有無を確認して除圧不足による除圧端での脊髄圧迫を回避することなど、合併症を予防し安全性を追求する対策を行っています。

腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症はポピュラーな疾患ですが、画像所見だけではなく、症状の内容や日常生活動作障害をよく聴き、丁寧な診察に基いて責任障害高位の絞り込みを行うことが重要です。画像上の狭窄所見だけにとらわれることなく、病態評価を確実に行うことで手術適応の判定を行い、手術に際しては必要最小限の手術侵襲となるように心がけています。



▲外傷

▲脊椎外科

▲関節外科

■関節外科

関節疾患に対しても積極的に治療を行っています。保存療法で対応できない変形性関節症に対する人工関節置換術（THA,TKA）や、自分の骨・関節を温存する高位脛骨骨切り術、半月板損傷に対する関節鏡手術など、それぞれの患者さんの病態に適した術式を選択して、歩行能力の改善や早期の社会復帰が得られるよう治療しています。

■手の外科、リウマチ関節外科など

手の外科や膠原病内科と連携して関節リウマチの手術にも対応しており、整形外科全般をカバーしています。

■地域連携

地域の病院・診療所の先生方との病診・病病連携を積極的に推進しています。病診連携の代表的な成果の一つである大腿骨頸部骨折の地域連携パスを当科では早期から導入しており、福岡市医師会主導の統一形式のパス作製にも参加させていただきました。

患者さんのご紹介に速やかに対応させていただく事に加え、地域の先生方への逆紹介も積極的に行っています。これからも地域の医療機関との連携を丁寧に行い、先生方に信頼され、患者さんに安心していただける医療を提供できるよう努力していきたいと考えています。



当院における新型コロナウイルス陽性妊婦の対応

産婦人科 部長 西田 眞

新型コロナウイルスは全ての年齢層に感染するため、妊婦においても一定の頻度で感染者が発生します。わが国では妊婦が非妊婦に比べて著しく重症化する、あるいは生命予後が不良とする報告はありませんが、米国疾病予防管理センター（CDC）は妊婦を重症化ハイリスク者としています。妊婦における重症化は、横隔膜挙上による肺の圧迫、循環血漿量増加、血液凝固亢進が関連していると推測されています。妊娠初期の感染が児の先天異常の原因となることはありません。子宮内感染は非常に少なく、分娩による新生児への感染もまれと考えられています。

福岡ブロックでは、当院と九州医療センターが中心となって新型コロナウイルス陽性妊婦を受け入れており、当院では2020年4月の妊娠30週妊婦を第1例目として、2021年9月30日までに26例のコロナ陽性妊産褥婦が入院しました。このうち、ウイルスが陰性化する前に12例が分娩となっています。コロナ陽性妊婦の分娩においては産婦の努責などによる医療スタッフへの飛沫感染が危惧されるため、当初は全例で帝王切開を行う方針としていましたが、現在は、経産婦等で比較的短い分娩所要時間が予想される症例では経陰分娩も選択肢に入れています。分娩症例12例の内訳は、帝王切開が7例、経陰分娩が5例です。帝王切開あるいは経陰分娩を行うにあたっては、感染対策を軸とした複数回のシミュレーションを行い、症例ごとに振り返りながら安全な分娩体制を整えてきました。幸いにも現在まで陽性妊婦から医療スタッフへの感染は1例もありません。

デルタ株を主とした第5波では妊婦の感染が急増して、7月下旬から8月中旬までの間に7例の陽性者分娩が集中しました。妊婦が感染する場合の多くは夫・パートナー、あるいは上の子供を感染源としており、家庭内での感染対策が非常に重要と考えられます。妊婦に対するワクチン接種は妊娠の全期間を通じて可能ですので、妊婦本人、さらには同居家族にできるだけ早くワクチン接種を受けていただくことをお勧めいただきたいと思います。



▲産婦人科 西田先生



▲カンファレンスの様子

5東病棟 師長 岩隈 真由美

2020年3月より、国内でのCOVID-19感染症の拡大を受けて、COVID-19 感染妊婦の分娩や帝王切開術時の対応、出生児の管理について関連部門及び感染対策室とともに検討してきました。手術室や分娩室および感染症病床の環境や物品の整備を行い、さまざまな状況を踏まえた合同シミュレーションを定期的の実施しています。実際の対応後は合同で振り返りを行い、次の対応に向けて見直しを行っています。

また分娩直後から母親と新生児は感染防止のため母子分離となります。退院時に初めてわが子と接する母親がほとんどであり、育児に対する不安が大きくなります。また各家庭の感染状況も様々で母と子の退院先の調整に困難をきたすこともあります。感染症科、小児科と情報を共有しながら、産科外来や地域の保健センターと協力して、継続した母子支援を行っています。



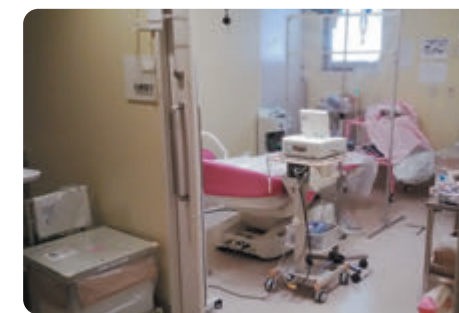
▲集合写真



▲コロナ対応シミュレーション



▲コロナ対応シミュレーション



▲感染対策した分娩室



運動不足解消の

ホームエクササイズ

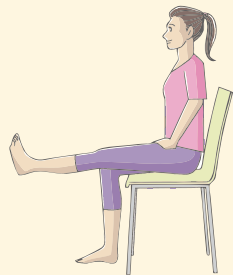
現在、コロナウイルスの影響で外出を控え、運動する機会が減っていると思います。運動は、筋力や自己免疫力の向上、自律神経を整える等の効果があります。運動不足を解消するために、ご自宅で簡単に行えるエクササイズを3つ紹介します。下記項目を各10回1セットから始め、3セット程度を目標にしましょう。無理せず、体調に合わせて実施して下さい。

理学療法士：吉塚公祐

01 膝伸ばし運動

方法 片方の足をまっすぐ伸ばし、5秒間保持します。

目的 太ももの前の筋肉を鍛えます。



02 スクワット

方法 足を肩幅に広げ、膝がつま先より前にでないように膝を曲げます。

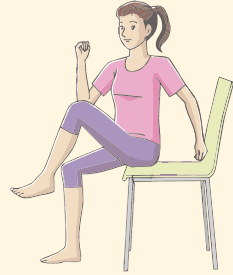
目的 足全体の筋肉を鍛えます。



03 座って腕ふり・足踏み

方法 椅子に座って、歩くようなイメージで手と足を振ります。

目的 全身持久力を改善します。



新型コロナウイルス感染症対策整備として 日本財団より支援を受けました

日本財団では、新型コロナウイルス対策として預かった総額約11億円の寄付金を活用し、全国の医療機関へ感染症対策整備にかかる支援として、感染症指定病院(特定・第一種・第二種感染症指定病院)を対象に公募を行いました。

当院も第二種感染症指定医療機関に該当するため、5月に申請したところ、新型コロナウイルス感染者の入院診療、外来診療を積極的に行っている医療機関として、全国236施設のうちの1施設に選ばれ、支援を受けられることとなりました。

いただいたご支援で、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、「アイソレーションガウン25,000枚、N95マスク28,200枚」を整備することができました。

今後も感染対策を十分に行いながら、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れに尽力したいと思います。

ご支援いただきありがとうございました。



▲新型コロナ対策のためにご支援いただいたアイソレーションガウン(25,000枚)とN95マスク(28,200枚)

地域とともに! 登録医紹介

当院の基本理念である「信頼と調和に基づく最良の医療～地域を尊重、世界を視野に」を行うための心強いパートナーとなる登録医の先生方をご紹介します。

いつか脳神経クリニック

Q クリニックの診療内容・特色

2020年11月に南区清水に開院しました。福岡市には私を含め頭痛専門医が10人しかおらず、それもあつてか初めて受診される方の主訴は頭痛が多いです。診療内容としては頭痛診療以外には、パーキンソン病を始めとした神経疾患診療、認知症診療、脳卒中予防を含めた生活習慣病診療に力を入れております。当院では1.5TのMRIを導入しており、頭蓋内病変を鑑別する必要がある場合は早急に検査を行うことができます。また、パーキンソン病や認知症の診療では福岡赤十字病院の機器共同利用制度でシンチグラフィを利用させていただいており、より精度の高い診療をおこなうよう心がけております。福岡赤十字病院を始めとした近隣の医療機関に信頼されるクリニックを目指します。

Q 地域の皆様へ一言

2020年11月に開院したばかりのクリニックですが、開院してからは頭痛でお悩みの方が多く受診されています。頭痛でお困りの方は「たかが頭痛」と考えて鎮痛薬だけで対応せずに気軽に受診して下さい。頭痛の回数を減らす管理の重要性をお伝えし、頭痛診療の効果も実感いただけたと思います。脳神経外科と間違えられることが多いですが、内科ですので生活習慣病を始めとした内科診療も対応できます。脳神経という言葉にとっつきにくい印象があるかもしれませんがお気軽にご相談ください。地域の皆様の健康に少しでも貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



院長 石束 光司 先生
(日本神経学会神経内科専門医)
(日本頭痛学会認定頭痛専門医)
(日本認知症学会認定認知症専門医・指導医)
(日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医)
(日本内科学会認定総合内科専門医)
(日本老年医学会認定老年病専門医)

住所 〒815-0031 福岡市南区清水2丁目8-14
TEL 092-557-3636
診療科目 脳神経内科、内科、漢方内科
診療時間 月・火・木・金 9:00~13:00(最終受付12:30)
14:00~18:00(最終受付17:30)
水・土 9:00~13:00
休診日 日曜・祝祭日

医療法人 平川内科クリニック

Q クリニックの診療内容・特色

大橋の地で透析医療を担ってきた三井島内科クリニックを継承し、去年の9月に新しく平川内科クリニックを開院いたしました。

診療は血液透析と腎臓内科を行っており、腎臓内科は予約制です。福岡市南区の方を中心に来院があり、血液透析は無料送迎も行っています。

施設は比較的新しく、新型コロナウイルスなどの感染症対策を考えて作られているので安心して来院いただけます。管理栄養士も常勤しており、透析中の食事の提供や栄養指導も行うことができ、食事のご好評いただいております。

大切にしていることは、「基本に忠実な医療を行う」とことと「患者さんと一緒に考える」とことです。ながく治療を続けなければならない病気ですので、どうしたら、それぞれの患者さんにとって、よりよい生活を続けられるのかを一緒に考え、患者さんが納得して、その人に合った治療を行えるようにしていきたいと思います。

Q 地域の皆様へ一言

血液透析以外に、腎臓内科外来を行っております。健康診断で、腎臓や尿に異常を指摘された方や、慢性腎臓病で通院が必要な場合など、お気軽にご相談ください。なるべくお待たせしないよう完全予約制で診療しております。また、福岡赤十字病院をはじめ様々な医療機関と緊密に連携を取りながら診療を行います。

慢性腎臓病を持つ方々が安心安全で、ながく元気に暮らせるように、これまでの経験を生かし多職種のスタッフでかわりあうチーム医療により、質の高い医療サービスを提供していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



院長 平川 亮 先生
(日本内科学会総合内科専門医)
(日本腎臓学会腎臓専門医・指導医)
(日本透析医学会専門医・指導医)

住所 〒815-0035 福岡市南区向野2丁目5-7
メディカルパーク大橋3F
TEL 092-562-8871
診療科目 腎臓内科(予約制)、人工透析
診療時間 血液透析
月・水・金 9:00~22:00
火・木・土 9:00~15:00
腎臓内科外来
予約制
休診日 日曜